

非常災害時に備えた自衛隊ヘリによる通信機材の空輸訓練(南海レスキュー訓練)

四国総合通信局では、「陸上自衛隊との災害時等の相互協力に関する協定」に基づき、令和8年1月20日（火）に、自衛隊の「南海レスキュー訓練」の一環として、陸上自衛隊第14旅団、通信事業者各社と共同して、自衛隊ヘリを活用した通信機材の空輸訓練を実施しました。

本訓練では、通信機材を運搬するための手順等を確認した後、自衛隊ヘリに荷物を搬入し、上空を旋回しました。今回の訓練により、災害で道路が使えなくなった場合でも、自衛隊ヘリを活用して必要な通信機材を早く現地に届ける体制をより強化することが可能になります。今後も陸上自衛隊との連携を強化し、災害に即した訓練を継続的に実施してまいります。



通信機材をヘリに積載する様子



陸上自衛隊との災害時等の相互協力に関する協定概要

地震や風水害などの大規模災害が発生、又は発生するおそれがある場合に、双方が緊密に連携し、迅速かつ円滑な災害対応を行うための枠組みを定めたものです。陸上自衛隊はヘリコプターや車両等を活用した人員・通信機材の輸送を担い、四国総合通信局は無線局の開設支援や混信・妨害への対応を行うことで、災害時に必要な通信体制の早期確立を図ります。